

校

名古屋 電氣學校

報

2

昭和四年
五月號

三月二十一日

午前十時 晝間部本科卒業式を舉行
日野校長の懇篤なる訓辭、來賓大澤月
峰氏の祝辭あり、卒業生一同感激す。

四月八日

午前九時より晝間部一年生の入學式
舉行さる。入學許可されし者百四十名

實驗器具購入

科學、工學方面の教授に實驗の必要
なるは今更云ふを須ひないが、要は經
費の問題である。我校は最近主として
基礎學科たる物理、化學方面の實驗器
具を購入し次第に設備の完全を期しつ
ゝあるが、卒業生諸君の寄附金も同方
面に充用しなほ今後一層の完備を期す
る筈である。

運動部だより

第一に誕生の聲をあげたのはテニス
クラブである。北畑の本校コート及び
東區綠ヶ丘の東邦電力のコートを借用
し練習を開始。
詳細は次號に報告する。

一、座右八戒

わけもなく古きを嫌つて、いたづら
に新しきを好むのは常人誰しも陥る
通弊であり、又何時の時代にも見る惡
傾向ではあるが、これは我々餘程氣を
つけなくてはならぬところであらう。
さりどて古きを守つて一步も進み得ぬ
頑迷固陋も亦一層警戒しなくてはなら
ぬところであるが。要は新舊を問はず
よきをよしとし、惡しきを惡しとする
正しい眼光を具ふべきであらう。この
點、我々若い者は大に省みるどころが
なければなるまい。古人の言に靜かに
耳を傾けるのも亦大に益ありと云はね
ばならぬ。左に掲ぐるは、尾藤二洲の
座右八戒であるが、現代人にとつても
その精神は毫も眞價を減せず、むしろ
一層大なる妥當性を以て迫り來るもの
と思ふ。

座右八戒

- 一、心一事を主とし二三にすべからず
- 一、行は衆善を取り偏執すべからず
- 一、座作常に畏謹を要す、躁妄すべからず
- 一、言語は必ず其の是非を辨へよ
- 一、物に接しては必ず其の邪正を擇べ
- 一、群居の時は須らく雷同を禁すべし
- 一、獨知の地最も謹慎を加へよ

二、自學自習

およそ學問をするに自分自ら學ぶ以
外に道はない。他から教へられると云
つても、つまりは此方にその教へを受
けやうとする努力がなくてはだめであ
る。喩へば、我々が馬に水をのませや
うとして馬を水邊まで引つばつて行く
そこまでは無理にでも馬をつれて行く
ことが出来るけれど、次に馬に水を飲
ませやうとしていくら馬の口を水の中

へ押しこんでも、もし馬が飲まうと欲
しなければ他から強制するもむだなこ
とである。赤ん坊に乳をのませるのも
同じことで、いくら乳房を口へふくま
せても赤ん坊がのまうとしなければ、
ごうしたつてのませるわけに行かない
學問にしても他からどれほど教へやう
としても、どんなに分り易くのみこめ
るやうにして與へても、學ばうとする
氣の無い者にはその親切もむだになつ
てしまふ。

これに反して、學ばうとする志のあ
る者には、たとひ他から教へられずと
も自らの努力によつて少しづつなりと
も學問をかみわけ、理解し、自己のも
のとなし得るのである、廣い意味の學
問は決して學生時代のみに限らず、そ
の後も絶えずつゞけなくてはならない
もので、それによつて我々は毎毎に年
毎に少しづつなりとも自己を大きくし
立派にして行くのであるが、そのやう
な學問にあつては、學校に於てのやう
に教師と云ふものはないのが原則であ
る。かんで含めるやうに教へてくれる
人はないのが普通である。そのやうな
場合に我々は一層自分自ら學ぶことの
必要に迫られる。學問し、身を修める
のは學生時代だけで終るのではないの
であるから、短い學生時代を有意義に
送る一つの態度として、自學自習の良
習慣をつけ、他から教へられる受動的
なところに満足を見出さずに、積極的
に進んで自分自身で獨力で學ばうとす
るやうに努めたいものである。しかも
そこには大きな喜びがある。自ら學ぶ
者のみ味はひ得るところの愉快がある

空間の考へ方

由來空間といふ意義は宇宙と同意義に解せられ、一般に球形に考へられ無限大の放射球状を爲せるのであります。今では多少其の考へ方を變更する必要が生じました。

之を述べる前提に我々の太陽系のごとを一寸言ひますと、此の太陽系は太陽を重心にする多数の大小惑星の集團でありまして、運動では各自に自轉、周轉、共進の三種を保ち、形状では厚みの薄い圓板ともいふべき一種の場を保つて居ります。此の太陽系の場は移して以て宇宙の形状を想像せしむるに足るものでありまして、我々は天の川宇宙の縮圖を太陽系によつて眼のあたり見せ付けられてゐるのではあるまいかと思ふ程、兩者の間に酷似點を發見します。此に唐突に天の川宇宙と言ひますと素人に一寸訝からるゝかも知れませぬが、要するに我々の宇宙なるものは天の川の大環に外ならないのでありまして、有らゆる星辰は皆悉く天の川の圈内に屬するのであります。而して天の川自體は何うかといふと横には無限大の廣さを保ちますが縦にはヨリ小なる無限大の厚みを保つに過ぎないのであります。無限大？ヨリ小なる無限大？言ひ換ふれば量の異りたる二個の無限大の存在を認めるといふやうな事になりませんが是は數理上容るされざる事勿論でありますけれども、奈何せん觀測上の現實は今の處之を肯定して置かなければならない道程に在ります。

此場合に於て宇宙は恰も團子を壓したやうに歪球に考へさせられます。則ち空間を歪球に似たものと想像させられるのであります。處が、更に輓近の星雲觀測は又其の考へ方を變更させるやうになりました、それは多数の星雲中には確に別個の宇宙を構成してゐるものが有るといふ事の闡明でありましてアンドロメダ星雲の如きは其の著しい一例であります。尙外にも一個あります。則ち我々の宇宙の場に甲の宇宙が切り込んで来て居り又乙の宇宙の場も切り込んで来て居るのであります或は近き將來に丙の宇宙丁の宇宙等が闡明せらるゝかも知れませぬ。

而して是等各宇宙の運動率は勿論のこと、其の運行方位さへ全然未知數ではありませんが我等の常識から考へますと是等各宇宙は當然之を統一する一個の重心の場の中に包擁せらるゝものと想像したい心持になります、けれども星學はまだ一足飛びに之を肯定するほどの曙光を示しませぬ。物體には必ず重心あり、各宇宙は物體なり、故に必ず重心ありと、三段論法を立て、見た處で、其各宇宙の重心を聯ぬる更に大なる重心ありとまで論理學は尻押しをして呉れませぬ。

斯うなりますと空間は光の透過を容るす無限の廣がりなりといふやうな定義は猶ほ意義を保つことが出来ませんが空間を宇宙と同一に考へることは之を改めなければなりません。

すると此の場合の空間の形は何う想像したらは可いのでありませうか、随分滑稽な物にならないければなりません。

則ち二三の歪球の相參差するもの、言ひ換ふれば花見團子の串の曲つたやうなもの、斯ふ想像すると何人も吹き出すには居られないでせう、けれども今の處は斯う考へて置くより仕方ありません。

翻つてアインシュタイン先生は、時は空間の四次元なりと數理立てられたのださうですが、其の空間といふ立體的觀念は單に天の川宇宙の上に置かれたのでせうか或は花見團子の數個宇宙の上に置かれたのでせうか私のやうな數理に暗い者には苟も星學が有らゆる宇宙を聯ぬる大なる重心の存在を肯定し得ない以上謂ゆる空間と稱する一種の廣がりの觀念は科學的にも論理的にも之を確定のものと思ふ譯には行かないと思はれませぬ。さすればアインシュタイン先生の空間は單に天の川宇宙のみ概念に取入れて扱つたものではありますまいか若し然うとすれば其の時なるものも畢竟天の川宇宙の對象に過ぎないといふ結論になりはしまさまいか。

抑も時といふものは宇宙と終始すべきものでせうか將た又空間と終始すべきものでせうか判り切つたやうな問題ではあります私が私には却つて宇宙の對象であるかのやうに考へられてなりません。既に三次元ありて四次元を生じたのであります以上更に五次元を證明するの時が來無いたいふ事を誰が斷言し得る者がありません。私が時は空間の對象にあらずして寧ろ宇宙の對象であるかのやうに思はるゝと言ひますのは理屈は抜きにして何だか本能的にそ

蟻の文化

(米國雜誌科學ト發明第十二號所載)

此の地球上に在つて人類が有する最高の國家至上の文化を超越して卓絶せる國家と文化を保有する生物ありと謂はば言は餘りに奇異にして人をして轉た荒唐無稽の辭を弄する者なるが如く想はしむべしと雖も而かも或一定の期間仔細に蟻の生活を研究したらんには全然其の然る事を肯定せざるを得ざるに至らん。

見よ我等人類は國家の一細胞たり一元素たるに拘らず常に自由を要求し權利を主張して止まざるにあらずや是等の要求と主張とは國家の母體と枵格し納鑿相容れざるの結果は惹いて個人の鬭争となり階級の鬭争となり黨同異伐相排し相擠し日として政治を物議せざるは莫く夜として社會を呪咀せざるはなし。翻つて蟻の國家を見れば幾千幾百の個々の蟻は黙々として部署に就き欣々として業を執り一意専心共存共榮の集團(國家)の爲めの故に盡瘁し詰旦事有れば身を挺して國に奉じ死を見ること歸するが如きは到底我等人類の得て企て及ぶ所にあらざるにあらずや。蟻の社會は實に平和と秩序の天國なりと云ふべし。

蟻の歩哨、蟻の斥候、其の暗號其命令は何等上長の決裁を経るを要せず直に總動員となり總出動となる是等共同作業の様式は不文の軍規不文の軍律倏忽四野に行はれ電光石火實に鬼神を驚

かすものあり斯くして蟻一個の資格は平時の一卒忽ち出師の大總督となり威をも藉らず揆をも越わす機に臨み變に應じ互、相率ひて皆克く國家の重きに任ず。識らず人類は如何の状ぞ。

人類は科學を持ち電氣を持ち星學を持ち文學を持ち化學を持ち藥種を持ち其他各種の文化を持つ然るに蟻は何等這種の物を持たざるが如くにして而かも能く高級の文化を作す惟ふに我等は將來我等の有する總ての物を一擲して何等技工の文化を持たざるも而かも至上至高の世界を有する是等蟻の驥尾を慕ひ徹頭徹尾其の文化に摹倣せずんば已まざるの時あるべし。現に我等は我等の原始時代に於て一個の護身用棍棒を有する否は我等の死活問題たりし程緊要關くべからざりし物なりしに拘らず今は全然之を放棄し曰く刀劍曰く銃器等々の武器に執着し毫も棍棒を顧みざるにあらずや。我等が今日自負する所の我等の文化は舊套陳腐用ふるに足るものならずとして蟻の文化に接近し蟻の道德に追従せんとする日の必らず近き將來に來るべきは火を靦るよりも明なるべきか。

人類がコンクリート樓閣を築くには諸般の器械と材料とを要する然るに南米の或種の蟻は一個のスコップ一枚の鐵板を用ゐずして能く二十五吹の樓閣を築く今誠に蟻と人類との骨格身長に按分して之を換算せんか是れ實に人類が一萬三千二百呎の高塔を建つるに値ひす古往今來僅かにピラミッド、阿房宮、エツフェル塔、ブロードウェイの幾十階と云ふが如き微々たる建築物を以て誇

とす我等人類は此の蟻の作れる摩天樓の前に顔色を變せずして立つの勇氣ありや。而かも蟻は一柱の鐵筋をも用ひず能く耐震の堅實を保ち其のコンクリートは人類が未だ曾て作り得ざる特種精密保強の材料より成り其裝置亦實に完備を極め交通室、廻廊、大廣間等巧妙の設計と構造とは裕に數千の公衆を容るゝに足る。

或種の蟻は眞に精巧なる紙を製出すれども其の製法は我等の人智を以てしては到底窺知するを得ざる所なり。農蟻は諸種の種子を播き能く其の收穫を擧ぐるを得就中彼等の地下窟に數種の食用草を培養するの事實は何人も容易に發見する所なり。

蟻は又至精至純の蜜を造り之を同類の下腹部に貯藏せしむ貯藏の任に充てられたる蟻は其の腹部を二十倍乃至三十倍に膨大し滿腹皆蜜を湛ふ這の種の蟻は足一步も門外に出でず頭を天井に懸けて終生其の任を守り世間と全く没交渉なり。惟ふに斯の如き犠牲的精神を以て斯の如き献身的義務を擔ひ而かも一點の不平無く而かも微塵の懊惱無く晏如として國家公衆に奉ずる者蟻の世界にあらずして果して何處にか發見すべき。道德を説き修養を談するに日も尙足らずして不平不満に充さるゝ我等人類は宜しく蟻の前に愧死すべきにあらずや。

蟻の殖民地に蟻の家畜を飼養することとは猶ほ我等人類と異らず蚜虫と名づくる食物を與へて能く其の禽畜を飼育する以外に禽畜の脱出走を阻止する爲め塙を設けて之を包み必要に應じ

て禽畜を屠殺し以て宴會の食膳に上ばす。蟻は人類が有するラヂオ、無電に優越したる特種の通信機關を有し驚くべき長距離の間に在りて驚くべく迅速なる通信を交換し應急の動作を開始することは不思議といふも餘りあるの事實にして其の如何なる音波如何なる電波を利用して能く斯くの如くなるを得るか是我等の人智には畢竟謎といふべきも我等は恐らく蟻が電波以上ですぐれたる何者かを有することを闡明するの日は有らん。

蟻乎、蟻乎、彼等是如何にして其の本能を斯くも神秘的に働かし得るものぞ、惟ふに人類は有らゆる現在の所有物を放擲し飄然舊の原始に還り赤裸々以て蟻の文化に追従するにあらずんば

何れの日か果た能く理想の天國を開き人々個々相倚り相信し無上の聖道に安住するを得んや。(無名子意譯)

文苑

春望 中島 甲山

櫻雲鸚鵡置金城
行樂都人步履輕
柳外春風花外雨
鶯歌燕舞過清明

孝感
元正明皇第幾年
天降嘉瑞是靈泉
六龍東幸君恩大
赫赫孝名千祀傳

修學旅行への案内

本年度春期修學旅行は京都を中心に桃山、大津方面と決定した。詳細は未だ發表出來ぬが、目的の豫備地蔵を具ふることは修學旅行の意義を全うする一途であらうと左に名所案内をのせる。記事は御多忙中にも抱はらず、一切實際に無理におれがひして中島甲先生を煩はしたものである。(編輯者)

京都市

山紫にして水明なりと推賞さるゝ京都市は、今を去ること一千一百有余年の昔なる桓武天皇の延暦十三年に都を奠めてより、明治天皇の明治二年車駕東遷せらるゝまで一千七十有五年の帝都なりしなり。市の現勢たる人口實に七十萬を超え、東には東山三十六峰の秀麗なるあり、北にはや、離れて曾て王城鎮護の名ありし比叡山を仰ぎ、西には崇高京畿に知らるゝ愛宕山を望む

鴨川の清流は其水質を以て京都染の美を表はして東を流れば津川の風景は嵐山と其名を擅にして西南に注ぐ、市街端正にして工商業又盛なり、中にも雲居の空高き京都離宮を始め奉り、京都帝國大學同志社大學並に高等各種の學校は古より文學の中心地たるに恥ぢず京都府廳其他大小の官署ありて史實に富めること全國第一として社寺の著名なるもの極めて多く、以下その大要を擧げん。

桃山御陵 大正元年九月十三、十四、十五の三日大葬儀を行ひまつりし明治天皇の御皇靈を鎮め奉る地は京都府紀伊郡堀内村字古城山なり。こゝは古豊大閣の桃山城の一部に當り御陵の東には昭憲皇太后の尊靈を鎮め奉る東陵あり。

又其傍なる乃木神社は軍神乃木大將夫妻の義魂を長へに奉安せり。
三十三間堂 又蓮花王院といふ、初め後白河法皇の法住寺殿に建立されしものにて一千一體の觀世音を安ず。本堂は特建にして南北凡そ六十六間、三十三の名あるは二間毎に柱を立つるより堂内に二十八部衆なる運慶父子の作なる國寶あり。

寛文九年尾張の藩士早野勘左衛門の一晝夜八千八本の通し矢は堂の後にて行はれしといふ。
大佛 又方廣寺といふ。初め豊臣秀吉十六丈の巨像を作りしも大地震に崩壊し其子秀頼父の志をつぎ再建せしに『國家安康』の鐘銘より豊臣氏は徳川家康の怒を買ひ終に其亡滅を致せり。今も猶其當時の鐘は依然としてあり。

西谷 眞宗開祖親鸞上人の廟所にて本願寺に屬す。
清水寺 法相宗にして坂上田村麿の尊信により建立せらる、本堂は特建にして、十一面觀世音(國寶)を安じ西門鐘樓共に特建なり。

境内眺望極めて宜く忠僕茶屋は勤王の名高き西郷隆盛の僕の開きたるものなり。
高臺寺 豊臣秀吉夫人胡月尼の開基に

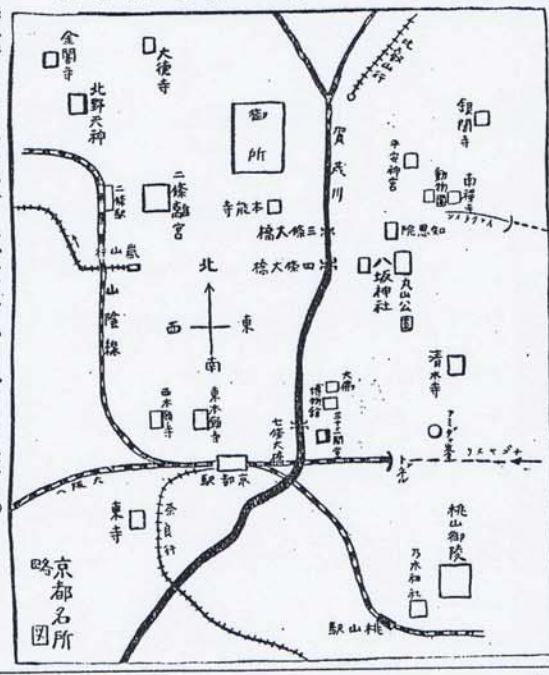
して慶長十年徳川秀忠は其老臣酒井忠世、土井利勝等に命じて大伽藍を落成す。後浪士の爲めに焼かれ開山堂豊臣廟のみを遺せり。
八坂塔 特建平安の都以前よりありたる古塔(特建)にして聖徳太子の草創なりしが後廢れて將軍足利五代義教の再建なり。

圓山公園 山姿優雅にして翠綠相映せり。中央なる祇園枝垂櫻の老木古より名あり。圓山の頂上なる將軍塚は國家鎮護の爲めに田村將軍の甲冑を土偶に被らしめて埋めし地なり、世に國家事あれば此塚鳴動すと傳へらる。

智恩院 淨土宗の總本山にして、淨土宗の開祖源空(圓光大師又法然上人)の開きし大寺にして、徳川家康の尊信深く東山第一の巨刹を建るに至れり。

本堂及大小方丈共に特建にして寛永十年(徳川家光の時)の建立なり、本寺國寶極めて多し。本寺第一の什寶は(國寶)圓光大師行狀圖傳卅八卷にして、伏見、後伏見、後二條の御宸筆と尊親圓王、三條、世尊寺、姉小路の筆にして畫は土佐吉光にして紙の繼目に尊氏の花押ありと。

京都御所 皇居は中央にあり、南面の正門は建禮門にして内に紫宸殿、清凉殿あり、外より拜して高く聳ゆる



は即昨年大禮を行はせられし紫宸殿にして其大庭を南庭といひ、左近の櫻右近の橋は階下の左右にならべり御所に隣りて仙洞御所、大宮御所あり、今の皇居は里内裏とて延元元年足利氏の北朝光明院を奉じたるを始めとし南北合一の後も常に皇居と定め應仁以來荒廢せしを織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の三氏力を盡して造營し天明八年大火にて焼失せしを十一代徳川家齊、松平定信に命じて

再建し以て今日に至る。
同志社大學 基督教同志の創立にて初め新島襄氏之を開き今や大學組織として人材養成に力め文豪徳富蘇峰氏の如き之に出づるもの多し。

北野神社 明治四年官幣中社に列し菅原道真を祭る、沿革は村上天皇の天曆元年の創立にして右大臣藤原師輔を祭時とし歴朝行幸の事多し。社殿は慶長十二年豊臣秀頼の新たに

造營せし桃山時代の特長を發揮したる特建なり。
 國寶、北野縁起は藤原信實の筆にして有名なるものなり。
平野神社 今木神外三座を祭る、大江氏、平氏の氏神として崇信せられ明治四年官幣中社に列す。
 因に曰く今木神は桓武帝の母君の遠祖自濟國王なり。
 社前の櫻樹は多種ありて、市中に有名の勝地と定めらる。
金閣寺 應永四年足利將軍義満の造れる北山山莊の遺址にして義満の子將軍義持の時之を建て、夢窓國師を開山とす、寺名鹿苑寺なるも三重の金閣あるより金閣寺といふ。
 三層は初層を法水院、二層を潮音閣、三層を究竟頂といふ。堂宇は應仁の兵火にかゝりしも、此堂は存して木像、足利義満の坐像の如きは國寶に屬す。

嵐山 丹波より連れる山脈の一部にて小倉山、龜山と對し大堰川(又保津川)の清流に臨む京洛第一の風光なり。
 此山紅葉の名所なりしが龜山法皇吉野より櫻を移させたまひしより春の櫻、秋の紅葉並び賞せらる。
大悲閣 は渡月橋より七町許にありて保津川開修の功勞者富了以の像を安じ林羅山の撰文あり。
法龍寺 虚空藏佛を祭り十三參りにて有名なり。

渡月橋 嵐山電車の終点より大堰川に架せる名橋なり、之を渡りて法龍寺及嵐山に赴くなり。

四日市支部 永井 金一
宮島内閣(?)は閣議を開催して施政方針につき全力を挙げて研究中です。その二三を記して見ますと次の通りです。

- 一、名簿原簿の完成
- 一、會報發行
- 一、懇親會開催

全内閣は此議按を提げて議會に臨み評議員の討議にゆだねんとしてゐます。今や我が同窓會は一大飛躍を遂げんとしてゐます。それにつけても、この大事業は、ひとり役員の方力のみで完成することの如何に困難であるかは、此處に私がクドクドしく申上げる迄もなく、賢明なる會員諸兄の夙に御推察の事と信じます。切に會員各位の御助力を熱望致します。

お、熱き血潮に燃ゆる若人等よ、いざ立て！我等の建つる躍進の旗下に走せませよ！會の隆衰は一に掛つて兄等の双肩にあるにあらざるや！
(五、九、一九二九)

投稿 歡迎

今月は原稿豊富のため、遂に同窓會欄を五頁に増大するの止むなきに到つた。いつもこの様な調子で行きたいと思ふ。

會員諸兄よ。奮つて投稿されよ。同窓會欄は兄等の頁である。

書く材料は兄等の周囲に撰擇に困る程澤山ある筈である。よく書けないと云ふ人が多いが、書けないのではなく書かないからだ。(ともる)

同窓會評議員會開催模様

四月十九日及全二十五日ノ同窓會委員會決議ニ基キ五月十一午後五時半ヨリ市内松ヶ枝町東邦電力支店ニ於テ評議員會開催ナル。其ノ模様左ノ如シ。

- 一、本日出席者 二十九名
- 東邦電力八名、逓信局五名、鐵道局三名、學校二名、市電二名、東邦機二名、名鐵二名、川北一名、瀬戸電一名、大同一名、警察部一名、岐阜支部一名

一、本日會合ニ至ルマデノ經過報告
東邦電機ノ佐藤登志彦氏ヨリ詳細報告シ理事長ヨリ提出シタル同窓會規則ニ按ニ對スル簡單ナル説明ヲナシ議事ヲ開始ス

一、會則ノ決定
逓信局ノ宮島鉦一氏ヲ議長トシ草按ニツキ遂條的ニ協議ノ結果大体ニ於テ原按ヲ認承シ別項記載ノ通り決議ス

一、評議員長ノ選舉
議長ノ指名ニ賛成多ク東邦電機ノ佐藤登志彦氏ヲ推薦シ満場一致決定セリ

一、同窓會將來ノ方針ニツキ協議ノ結果次ノ通り決定ス

(イ) 名簿原本ヲ理事ニ於テ作成スルコト

(ロ) 本年十月頃現在ヲ以テ新名簿ヲ發行スルコト

(ハ) 會報ヲ發行スルコト、此ハ經費ノ關係上直ニ實行困難ニツキ差當リ校報ノ三頁宛ヲ専用シ會報ニ代ユルコト、シ時期ヲ得テ獨立

發行トスルコト

- (ニ) 時々機會ヲ得テ懇親會ヲ開催スルコト
- (ホ) 時々工場其他ノ見學ヲナスコト
- (ヘ) 各支部ノ規則及現況ヲ本部報告スルコト
- (ト) 會費ノ徵收方法、此ハ各支部ニ於テ夫々會計係ヲ置キ責任ヲ以テ徵收シ無所屬ニ對シテハ適當ノ方法ヲ講ズルコト、尙本年度ノ分ハナルベク速ニ納付スル様御互ニ盡力シアフコト

名古屋電氣學校

同窓會規則

(昭和四、五、十一評議員會決議)

第一條 本會ハ名古屋電氣學校同窓會ト稱ス

第二條 本會ハ會員相互ノ親睦及共濟ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第三條 本會ノ會員ヲ分テテ左ノ二種トス

一、名譽會員 本會ノタメ特ニ功勞アリタル者ヲ會長ヨリ推薦ス

一、正會員 母校卒業者

第四條 本會ハ事務所ヲ母校内ニ置ク

第五條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
會長一名、理事長一名、理事若干名
評議員長一名、評議員若干名、書記二名

但シ理事長以下ノ任期ハ二ケ年トス

第六條 役員ノ選出方法ハ左ノ通りトス

一、會長ハ總員ノ決議ニ依リ推戴ス
一、理事長ハ會長ノ指名トシ理事ハ理事長ノ指名トス

一、評議員長ハ評議員ノ互選トシ評議員ハ各支部ヨリ推薦サレタル者及會長ノ推薦セルモノトス
一、書記ハ理事長ノ囑托セルモノトス

第七條 會長ハ本會ヲ代表シ會務ヲ統括ス

第八條 理事長ハ理事會ヲ召集シ本會ノ事業ヲ計畫立案シ之レヲ評議員長ヘ廻附シ決議サレタル事項ヲ遂行處理ス

第九條 理事ハ理事長ヲ補佐シ本會ニ關スル事務ヲ分擔掌理ス

第十條 評議員長ハ評議員會ヲ召集シ協議事項ヲ議決セシメ會長ノ決議ヲ仰キ理事長ニ廻附ス

第十一條 評議員ハ評議員長ノ提出スル議案ニツキ協議シ決議事項ノ實施ヲ援助ス 但シ十名以上ノ賛成ヲ得テ建議案ヲ提出シ評議員會開催ノ要求ヲナスコトヲ得

第十二條 理事長及理事ハ評議員會ニ於テ發言ヲナシ決議ニ加ハルモノトス

第十三條 書記ハ理事長ノ命ニヨリ本會ノ事務ニ從事ス

第十四條 正會員ハ會費トシテ年額金壹圓也ヲ納付スルモノトス

第十五條 會員ハ十名以上團結シ會長ノ承認ヲ經テ支部ヲ組織スルコトヲ得

第十六條 總會ハ毎年春秋二回之レヲ開クモノトス

第十七條 總會ニハ會計報告、會務報告ヲナシ重要事項ヲ協議ス

第十八條 會員ハ住所、勤務先ヲ詳記シ本會ニ届出ルモノトス異動ヲ生ジタルトキ亦同シ

第十九條 本會ノ會計年度ハ四月一日ヲ以テ初マリ翌年三月三十一日ヲ以テ終ル

第二十條 本規則ニ明示セサル事項ハ總テ評議員會ノ決議ニヨリ處理スルモノトス

附則

一、本會ニ關スル總テノ決議ハ出席者ノ過半數ヲ以テ決定ス

一、評議員ノ選出定員ヲ左ノ通り定ム

- 二十名以下ノ支部二名 各支部ヨリ推薦ス
- 五十名全 三名
- 百名全 五名
- 其レ以上ノ支部 六名
- 無所屬 十名以内會長ノ推薦スルモノトス

一部會員の消息

五十嵐眞一郎

エレキの絶後種々の不便に堪へ兼ねて、同窓會の機關誌發行の議が、同窓會の役員や、一部會員の間に希望されて居りました。併し、財源關係で思ふ様に行かず兎や角として居る内に母校から校報を出される様になりました。そして同窓會の爲めに紙面の一部を割いて下さる由ですから、在學生の人々には氣毒であります。御互ひに當分の間辛抱していただきなくてはなるまい。此の方法は一方から考へますと在

學生は卒業生の動靜を知る事が出来る即ち自己の先輩が如何なる方面に活躍して居るかを知らぬ事が出来て、多少卒業後の參考になり、又卒業生は、在學生の動靜、即ち母校の様子を知り得て參考になり、此の点一舉兩得である。まあ考へなくてはなるまい。さて斯く一隅を割いていたゞいた以上、御遠慮は却つて失禮と思ひまして、御命令に従ひ拙文を載せていたゞく事にしました。

いよゝ書く段になると、何を言つてよいか一寸困る。之は讀んでいたゞく事を前提として申すのであるが、兎角、讀む人が未だ社會に出ない人と社會に出た人の二様ある譯で、同窓會記事は讀む可からずと云ふ譯にも行きませんから。又書く人になつて見れば卒業生にも在學生にも讀んで貰ひ度い譯ですから。

漸く考へた末、商賈柄時々各方面に旅行にも出たり、又同窓生の人々にも比較的多く御逢ひするから、一つ同窓生の動靜を書いて見ませう。然し何分會員二千餘名もあることですから、之を一人々々上げる譯にも參らぬから、小生の独自の立場から考へた會員中の出色者上げることにしませう。中には自他共に許す立派な人を書き落すかも知りませんが、之は僕が訪問しないために知らないのだから只不明を謝します。若し自稱名士が居りましたら、小生宛に申し込んで下さい。誠に前置きが長くて相済みませんので、然らばはつ／＼と手近な所から参りませう。

名古屋鐵道株式會社

此の會社には同窓生が十六、七人は居ります。先輩として第一回(卒)の小笠原清彦君が、電氣課に勤務して居ます。全君は、會社の、申請書類を全部やつて居る様ですが、資性温厚で、多年勤務して居る關係上無くてはならぬ一人らしい。自宅は犬山町にある由で名古屋、社へ通つて居ります。惜しむらくは漢病身らしく、同窓會へも顔を出さない。早く健康を回復して、同窓會へも顔を出して一骨折つていたゞき度いものです。會社は恩師山田芳一先生が、支配人をして居られ、電氣課長は、恩師藤田先生が其の職に就いて居られる。部下を愛される点に就て人望を集めて居られる。

名古屋鐵道局

此の所には同窓生が七十餘名居らるゝさうで、先輩としては第二回(卒)の水野賢次君第一〇回(卒)の杉浦弘君が居られる。

杉浦弘君は鐵道學校の電氣科の先生をやつて居らるゝさうで、小生は全氏に不幸にして御逢ひする機會がないので、又同窓生の役員會にも來られたことが無いので、之れ以上は知りませぬ。水野賢次君は、よく同窓會の爲め役員として永年の間盡されて居り、全氏には感謝の外は無い。今電氣課電力掛の統計主任の重職に居られる。此の同窓會が危機に際し乍ら、曲りなりにも續いて來て居ることは、全氏の功勞を多とせねばなるまい。自宅米野町の由、後進者の指導の任に當られる。

東邦電機工作所

茲にも同窓生が三、四十名は居られる先輩は第一回(卒)の佐藤登志彦君、第二回の小山田傳江君、第七回の長岡駒吉君、第六回の井戸明夫君、第六回の中野浩君、第十一回の渡邊守一君等が居られる。

佐藤登志彦君は非常に熱情の士にして、本會の元老に當り、本會創立以來自己を投じて本會の爲め盡され、母校新校舍建築當時の奮闘は、實に感謝に堪へ無い。爾來一時後進に役員的位置を譲りて、顔を見なかつたが、近來本會の振はざるを嘆き、今回再び立つて盡されることになり、近來は毎役員會には必ず出席されて、他の役員を勵まして居られる。特殊品の製作の主任で自宅は御器所に先年新築された。

小山田君も佐藤君と同じく創立當時役員をやつて居られた。今回再び佐藤君と共に本會を盛り返す可く立たれた全氏又熱血の士である。好漢切に自愛を祈る。

渡邊君は試験室に居られて、此の方責任者で、時々無理を願ふことがある君未だ若く、前途尙あり、本會の中堅として重きに任ず。着々本會の爲め盡されんことを希望す。

東邦電力名古屋支店並 關西支部及附近變電所

東邦電力の名古屋支店といつても、とに角大名古屋市の電氣供給關係を、一手でやつて居る所、そこへ技術部關西支部が加へられて居るから、とても大きなもので、現在丸田町の新築五階建の事務室へ引き移られたが、そは本建築にあらずして倉庫だとのこと。何